小学校英語 Just Now

小学校英語活動における学級担任の役割

酒井英樹　Sakai Hideki
（信州大学）

1. はじめに

学級担任が小学校英語活動を指導することが増えているように思える。本稿では，いくつか具体例を挙げながら，学級担任の役割について述べていく。

2. 児童の理解をモニターする役割

ALT が英語で児童に話しかける場面がある。このとき，学級担任は，児童が ALT の英語を理解しているかどうかを，動作（指示通り動いていない），表情（困惑した顔をする，友だちや学級担任をちらちらとみる）やつぶやき（日本語で「え ?」とか「わかんない」と言う）から判断することが重要である。

【事例 1】 ALT がクラス全体とじゃんけんを行う場面があった。ALT は“Hands up.”と言って児童全員の手をあげさせようとしていた。このとき，手をあげていない児童の A さんがいた。学級担任の O 先生は，A さんの近くに行き，“Hands up. Hands up.”と 2 度繰り返した。“Hands up.”を“Stand up.”と理解したのか，A さんは立ちあがろうとした。O 先生は，A さんの手に触れた。A さんは，周囲を見渡してから他の児童と同じように手をあげた。じゃんけんの機会がもう一度あり，ALT が“Hands up.”と言うと即座に A さんは手をあげた。ALT が英語を話しているとき，O 先生は教室の中ほどの壁際に立っており，ALT とクラスの両方に注意を払っていた。

まず，興味深いのは学級担任の立ち位置である。O 先生は，クラスの前で ALT と並んで立っていたり，児童の中に入っていたりと，立ち位置を変えていた。ALT が英語で話すときには，O 先生は児童の理解を観察・評価できる位置に立ち，支援が必要な児童のところにすぐ移動できるようにしていた。

次に，学級担任の支援が日本語によって行われなかった点に注目したい。O 先生は，ALT の英語をそのまま繰り返す方法と，どうすればよいのかということを物理的に示す方法（児童の手に触れた）を使った。A さんは，他の児童の行動の観察と合わせて，“Hands up.”の意味を理解できたように思える。2 度目は，躊躇することなく手をあげられた。学級担任が，児童の理解に注意を払うことは特に英語活動では重要になる。英語で進められる授業では，児童も不安を感じながら，一生懸命理解しようとする。わからないことばかりだと，理解しようという努力をしなくなってしまうだろう。

3. 児童に合わせた支援を与える役割

学級担任は，児童に応じた支援もできる。事例 1 では，O 先生は日本語で説明するのではなく英語を繰り返して児童に聞かせた。次に示す事例 2 では，O 先生は日本語を使いながらも，児童に英語で言うように求めている。一方，事例 3 では，児童に，どう言えばよいかをすぐに教えてあげている。学級担任は，それぞれの児童について，どこまで学ぶことができて，どのように支援するのがよいのか，という判断をすることができる。

【事例 2】 ミッシングゲームの場面（黒板に貼られた果物のカードを数枚外し，どの果物がないのか当てさせる活動）で，児童の B さんが「梨」と日本語で答えたとき，O 先生は B さんの隣に行き，「英語で」とやわらかく指示した。すると，B さんは ALT の方を向いて，“Pear.”と答えた。

【事例 3】 ビンゴゲーム（好きな果物について友だちにインタビューして,“Yes.”という答えが得られたら，署名をしてもらう）を行っているとき，児童の D さんが O 先生のところにきて，「なんて言うの？」とインタビューの仕方を聞いた。O 先生は，“Do you like …?” と言って，質問すればよいことを教えた。

児童が ALT の英語を理解できないとき，日本語を使ってもよいか，という質問を受けることがよくある。そんなときは，英語をなんとか理解しようとする点が大切であることを強調しながらも，学級担任として一人ひとりの児童をよく観察し，理解の度合いを判断してくださいとお願いする。日本語が必要な児童もいるかもしれないし，その他の方法で英語を理解することができる児童がいるかもしれない点を指摘し，個に合った支援ができるのは学級担任であると述べることにしている。私も one-shot で英語活動をさせていただく機会があるが，個に応じた支援は不可能に近いと感じる。同様に，ALT も一人ひとりに合った指導を行うのは難しいだろう。

4. 児童のつぶやきを取り上げる役割

児童の英語力は限られている。そのため，児童は英語活動であっても，日本語でつぶやいたり発言したりすることが多い。学級担任の役割として，この児童の発言を活かすことが挙げられよう。

【事例 4】 学級担任の F 先生が単独で英語活動を行っていた。動物の絵カード（A4 サイズを横にしたもの）を見せて，“What’s this animal?” と児童に尋ねていた。キリンの絵を見せたとき，児童の E さんが，「なんでそれだけ小さいの？」と言った。F 先生は，少し考えてから，“Long neck.” と答えた。すると，別の児童の G さんが「縦にすればいいじゃん」と言った。

F 先生は英語の専門ではないが，なんとか英語を使って授業を進めようとしている熱心な先生である。事例 4 の授業中，児童は日本語でいろいろと発言していた。しかし，F 先生が児童の発言に反応することはあまりなかった。おそらく英語を使って授業を進めているため，F 先生に余裕がなかったと思われる。

この偶発的なやりとりが重要なのは，英語を習い始めた児童と英語専門ではない学級担任がことばを使って「コミュニケーション」していることを示しているからである。まず，E さんは自分の感想をことばにして表現している。その表現を F 先生は受け止めて，英語で反応している。さらに，G さんは，F 先生の片言の英語 “Long neck.” の「首が長かったから，キリン自体が小さくなってしまったんだよ」という意味をしっかりと理解している。そして，A4 サイズの紙を縦に使えば，他のカードの動物と同様の大きさで描けることを指摘している。

このような「コミュニケーション」が，次第に英語を使って行うやりとりに発展すればよい。このようなことばのやりとりをするというコミュニケーションの基本を身につけている児童は，練習して覚えた表現を，生き生きとしたことばとして使えるようになるだろう。

5. 指名する役割

指名は，学級担任の重要な役割である。ALT がクラスに質問を投げかける場合でも，学級担任が指名をしたい。理由として，（1）活発な児童ばかりが発言することを避けられること，（2）手をあげていなくても発言したいという児童の様子を学級担任が把握できること，（3）他の科目の授業の発言ルールを適用できること（クラスによっては，多くの人の参加を求めるために発言の回数に制限を設けていることもある）などが挙げられる。学級担任が，一人ひとりの名前を呼ぶことで，児童の参加を活発にすることもできる。ALT が全員の名前を覚えて名前で呼びかけることは難しい。また，学級担任が発言した児童をほめることも容易になる。

6. おわりに

私が今まで行ってきた授業観察を基にして，学級担任の役割を紹介してきた。特に ALT や英語専科の教員が担いづらいと思われる役割を中心に，学級担任の役割のいくつかを紹介してきた。